F2-50

荒川区景観まちづくり塾の持続的活動に関する考察
—10 年間にわたる活動の変遷について—
A Study on the Sustainable Activities of the Arakawa Landscape & Community Activity Tutoring School
- About the transition of activity for 10 years -

○小山佳佑[1]，岡田智秀[2]，新橋一士[3]，竹内勇太[1]
*Keisuke Koyama[1]，Tomohide Okada[2]，Kazushi Shimbashi[3]，Yuta Takeuchi[1]

Abstract: The purpose of this study is to clarify important matter of the sustainable activities about the Arakawa Landscape and Community Activity Tutoring School. As a result, it clarified the important program of activity and the way to solve some problems.

１．研究目的；平成 17 年６月に景観法が全面施行されてから 10 年が経過した現在，行政のみに依存しない住民を主体とした景観まちづくり活動に対する機運が高まっている．そうした中，本研究で着目する東京都荒川区は平成 20 年に景観基礎調査に着手して以降，官民学協働の荒川区景観まちづくり塾（以下；「景観塾」）に至るまでの 10 年間にわたって景観まちづくり活動を実践してきた．そこで本研究は，住民主体の景観まちづくり活動を持続させるための留意点を導くために，荒川区の景観まちづくり活動の変遷からその特徴的な取り組みを明らかにすることを目的とする．

２．研究方法；上述の目的を達成するため，本稿では表１に示す調査を実施した．

３．結果および考察；表２は「景観塾」の体制を示し，表３は荒川区の最初の景観まちづくり活動となる景観基礎調査から「景観塾 2018」に至るまでの 10 年間の変遷を３期に大別したものである．以降では，各期の特徴を述べていく．

（１）組織結成期（平成 20—26 年）；荒川区の景観まちづくり活動の始まりは，景観法施行直後の平成 20 年に行われた景観基礎調査である．これは一般目線の荒川らしさを見出すために，区行政が主体となり，区民 2,000 人への郵送アンケートや区内外への Web アンケート，また区民を公募し４地区[(1)]を歩く景観ウォークラリーが実施された．これを単なるイベントに留めず公募区民の意見交換の場を設け，そこで示された地区内の魅力や課題点を景観基礎調査の報告書に反映させた．その区行政の姿勢に共感を得た公募区民の多くは景観計画策定作業に深く関わっていき，平成 23 年の景観行政団体への移行から平成 24 年の景観計画・条例施行に至るまでを支えていくこととなった．さらに，その施行と同時期にこれらの公募区民を中心に，策定された景観計画の普及・啓発を行うための景観フォーラムを開催した．その際，公募区民の１人が率先して様々な教育機関や企業に広報を行うとともに，つくばエクスプレス線の駅にポスターを無償で掲示してもらう等の協賛を得たことで，初回にして 100 名超を迎える盛況ぶりとなった．そして同年６月，これら公募区民らと区景観担当により荒川区景観まちづくり推進委員会（以下；「推進委員会」）が組織され，墨田区の取り組み[(2)]を参考に，区内の景観まちづくりの啓発を目的とした情報誌『てくてくと』が発行された．

（２）活動模索期（平成 27 年）；「推進委員会」の活動として，区民による「あらかわ百景」選定を企画し，『てくてくと』で呼びかけた．しかし，募集の旨を記した第３号の発行直前に，荒川区が東京都内において災害危険度１位[5)] [(3)]の地域と判明し，これまでの活動を支援してきた都市計画課は「防災」を第一に取り組まざるを得なくなった．その結果，第３号が発行中止となり，「あらかわ百景」の募集中止も余儀なくされ「推進委員会」解散の危機に晒されるに至った．そうした中，区行政の方向性である「防災」との接点を模索していたところ，東日本大震災の教訓として「防災と景観は不可欠の相方である」[6)]と述べた東京大学名誉教授の篠原修氏の記事に出会った．これを機に，「防災」と「景観」を両立させる新たなまちづくり活動への展開策として，これまで「推進委員会」が着手できていなかった景観まちづくりの担い手育成や地域価値の維持・向上という取り組みをも包含した「景観塾」の構想が築かれていった．

（３）活動実践期（平成 28—30 年）；「景観塾」を実践するにあたり，その前段階として「推進委員会」主催による景観まちづくりセミナーを平成 28 年３月に開催した．その講師となった篠原修氏が，「下町の風情を残して安全をはか

表１　調査概要［筆者作成］

Web 調査	
日時	2018（平成30）年7月2日（月）～9月21日（金）（約3ヶ月間）
対象	荒川区景観まちづくり活動，推進委員会に関連する既存資料
内容	・荒川区 HP より景観まちづくり活動に関する事項の抽出[1) 2)] ・推進委員会の活動に関する事項の抽出[3) 4)]
ヒアリング調査	
日時	2018（平成30）年8月17日（金）15時～17時
対象	荒川区防災都市づくり部都市計画課および「推進委員会」
内容	・Web 調査で抽出した事項の時期や経緯の確認

表２　荒川区景観まちづくり塾の活動体制（敬称略）［筆者作成］

荒川区都市計画課	永澤慎二，生川礼人
「推進委員会」委員長	脇田弘
「推進委員会」委員	木村恵洋，関智子，山口こずえ，八尾昭，北川正広，山本展久
「景観塾」塾長	篠原修（東京大学名誉教授）
WS 講師・協力	岡田智秀（日本大学教授）および岡田研究室

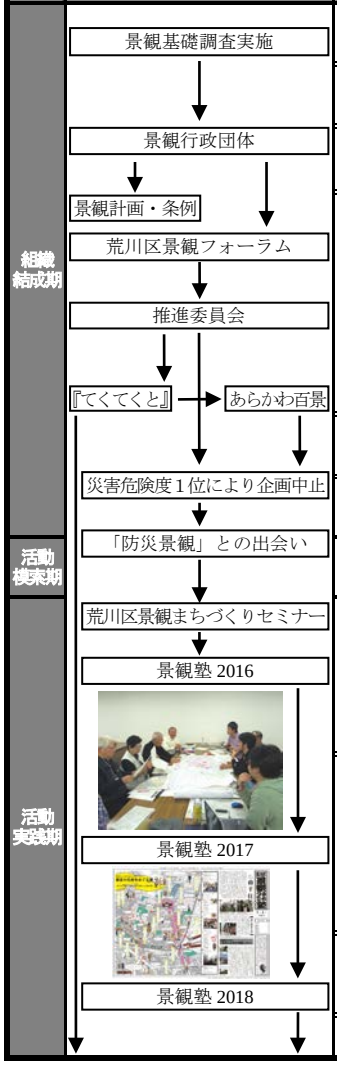
１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち　３：日大理工・院（前）・まち

る」というヴィジョンを提唱し，「防災」と「景観」の両立を区民に啓発した．その後，同年６月に開催された「景観塾」の運営は行政主導ではなく区民主体で行い，区行政や大学の支援を受けられる体制とした．プログラムは専門知識を１年区切りで習得するべく前半３～５回の講義を行い，後半は塾生の実践の場としてワークショップ（以下；「WS」）を開催した．「WS」講師は，「景観塾」運営に関わる推進委員が越谷市景観市民懇談会[7]に参加した際，「防災」と「景観」の両立案を講演した岡田智秀に注目し，岡田研究室に協力を仰いだ．そこで岡田研究室独自の考えとして，「災害は常時発生しない．日常の豊かさと災害時への備えの共存が重要である．荒川区における豊かさとは風物であり，そこには災害の歴史や防災に関する施設が含まれる．」と提唱し，日常または記憶の風景を楽しみつつ防災情報も理解できる，日常利用可能なまち歩きガイドを付与した荒川防災景観マップ（以下；「マップ」）作成が提案された．その結果，「WS」のプログラムは，１年目では新概念である「防災景観」の要素を抽出した景観台帳と４地区[(1)]ごとの「マップ」を作成し，２年目では２期生が１期生の「マップ」の表現内容を拡充させた．さらに，岡田研究室生が区内の「防災景観」を統合した荒川区全域の「マップ」を作成し，その成果に対して庁内関係部署を横断した意見交換会を設けたことで，「景観塾」の活動意義が庁内にも浸透していった．３年目となる本年は，地元案内役が１～２期生作成の「マップ」を用いながら地元外の塾生を連れてまち歩きを行い，「マップ」の実用性を検証するとともに，「防災景観」の定義を導き出していく．このように３年ひと区切りで１つの目標が達成できる課題成果更新型プログラムとすることで，持続的取り組みを実現させている．

補注；（１）荒川区における町屋・荒川，尾久，日暮里，南千住のことを示す．／（２）すみだ景観フォーラム会報を指す．／（３）荒川区の町屋４丁目が地震に関する総合危険度において東京都内で１位となった．

参考文献；１）荒川区景観計画 HP, https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kankyo/machidukuri/keikakujyorei/keikannkeikakku.html（最終閲覧日：2018.9.21）／２）荒川区景観条例 HP, https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kankyo/machidukuri/keikakujyorei/keikanpabukome.html（最終閲覧日：2018.9.21）／３）荒川区景観まちづくり推進委員会 HP, https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kankyo/machidukuri/keikakujyorei/matidukurisuisiniin.html（最終閲覧日：2018.9.21）／４）荒川区景観まちづくり塾 HP, https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kankyo/machidukuri/keikan/keikanjuku/index.html（最終閲覧日：2018.9.21）／５）地震に関する地域危険度測定調査 HP, http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/bosai/chousa_6/home.htm（最終閲覧日：2018.9.21）／６）エンジニア・アーキテクト協会：「防災」には「景観」が不可欠の相方である HP, http://www.engineer-architect.jp/specialissue/member/篠原-修/1228/（最終閲覧日：2018.9.21）／７）越谷市景観市民懇談会の開催報告 HP, https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi_shisei/kurashi/sumai/keikan/shiminkondankai.html（最終閲覧日：2018.9.21）

表３　荒川区における景観まちづくり活動の変遷［筆者作成］



年	月/日	概要	目的	背景
H20 (2008)	—	建設技術研究所と契約し，**景観基礎調査を実施**	荒川区の意見を収集することを目的とし，公募の区民と共にまち歩きを行い，意見交換の場を設け，荒川区景観基礎調査報告書を作成した．	荒川区職員の発案で，区民主体の景観まちづくりの体制を目指す前段階として実施．調査には後の景観フォーラム実行委員らが数名参加した．
H21 (2009)	7/—	「荒川区景観計画案」を区民の意見を伺いながら作成	荒川区が景観行政団体になるため．	通常では景観行政団体移行後に景観計画を作成するが，それでは東京都の合意が得られないため荒川区景観計画案を作成した．
H23 (2011)	5/1	荒川区が**「景観行政団体」**となる	――	――
	9/11 ~10/3	区独自の「荒川区景観計画案」の地域別説明会やパブリックコメントを実施	――	――
H24 (2012)		**「荒川区景観条例」・「荒川区景観計画」施行**	――	――
	3/1	第１回**「荒川区景観フォーラム」開催** 区民委員数：12 名（代表：内山正美） 参加人数：100 名以上	荒川区の景観への取り組みを区民と共有し，景観まちづくりに対する区民の関心を高めることを目的とした．	施行に合わせ，公募された区民委員 12 名により運営がなされ，区民主体を体現する場とした．
	6/1	**「推進委員会」発足** 委員数：８名（会長：脇田弘）	荒川区の「区民主体の景観まちづくりを進めることが，地域の良好な景観づくりを展開していく」という流れを踏まえ，景観まちづくり活動を区民主体で行うことを目的とした．	景観フォーラムが好評で，このままで終わってしまうのはもったいないという都市計画課の意見から発足した．しかし，景観まちづくり団体とまでは至っていない．
	12/—	『てくてくと』第１号発行 委員数：８名　発行部数：6,000 部	荒川区らしい景観まちづくりを行うために，「あらかわ百景」の選定準備を進め，区民からの景観要素の募集の呼びかけをした．	荒川区らしい景観形成の実現において，江戸川区や世田谷区を参考に景観を周知させるため冊子媒体での発行に至った．
H25 (2013)	4/—	『てくてくと』第２号発行 委員数：８名　発行部数：6,000 部	荒川区の景観に対しての取り組みを具体的に紹介した．また，啓発・PR 活動の実施にも重点を置くことを発表した．	「あらかわ百景」について，すでに様々な方法で風物資源が取り扱われていたため，啓発・PR にも重点を置いた．
H26 (2014)	4/—	『てくてくと』第４号発行 委員数：11 名　発行部数：3,000 部	まちづくり活動の支援制度を分かりやすく紹介し，区民・事業者と良好な景観形成を行っていくことを掲げた．	発行中止となった第３号の表紙から百景募集の文字を削除し，第４号として発行した．
H27 (2015)	—	「あらかわ百景」の企画が潰れてしまったため，**活動の方向性が見いだせなくなる** 委員数：６名	次なる活動方向を見出すため専門家を尋ねた．また，文献調査も行った．	荒川区の災害危険度が１位だと判明し，「あらかわ百景」の選出に取り組むことができなくなった．
H28 (2016)	3/25	**「荒川区景観まちづくりセミナー」開催** 委員数：６名　参加人数：約 50 名	区民への「防災景観」の理解を深めることを目的とした．	「景観塾」のオープニングセミナーとしての役割があった．
	6/25	**「景観塾 2016」開催** 第１～５回：講座　第６～８回：「WS」 委員数：６名（塾長：篠原修）参加人数：31 名	「防災」と「景観」の両輪で進めるまちづくりを共に学び，共に考える場として区民の参加を呼び掛けた．	荒川区らしい景観の形成を実現するため，新たな地域力向上の担い手の発掘・育成し，やがて景観まちづくり団体を組織する芽を育てることを目標としている．
	9/—	『てくてくと』第５号発行 委員数：６名　発行部数：2,000 部	「防災」と「景観」の両輪で進めるまちづくりを行うにあたり，「景観塾」の開講を周知させる．	全国で発生した大災害を鑑み「防災」を最優先すべきとの強い意見から，「防災と景観は両輪で進めるべき」という結論に至った．
H29 (2017)	3/—	『てくてくと』第６号発行 委員数：６名　発行部数：2,000 部	「景観塾」で何を行ったかを具体的に記し周知させる．	――
	3/3	荒川区景観まちづくりシンポジウム	成果発表を行い，最優秀賞，オーディエンス賞を決定する．	――
	7/29	**「景観塾 2017」開催** 第１～３回：講座　第４～６回：「WS」 委員数：４名（塾長：篠原修）参加人数：25 名	引き続き，「防災」と「景観」の両輪で進めるまちづくりを共に学び，共に考える場として区民の参加を呼び掛けた．	荒川区らしい景観の形成を実現するため，新たな地域力向上の担い手の発掘・育成し，やがて景観まちづくり団体を組織する芽を育てることを目標としている．
	12/—	『てくてくと』第７号発行 委員数：４名　発行部数：2,000 部	「景観塾」の第二期が行われている様子を伝え，何を行ったかを具体的に記し周知させる．	――
H30 (2018)	3/3	荒川区景観まちづくりシンポジウム 2018	成果発表を行い，最優秀賞，優秀賞を決定する．	――
	7/28	**「景観塾 2018」開催** 第１～３回：講座　第４～６回：「WS」 委員数：６名（塾長：篠原修）参加人数：16 名	引き続き，「防災」と「景観」の両輪で進めるまちづくりを共に学び，共に考える場として区民の参加を呼び掛けた．	荒川区らしい景観の形成を実現するため，新たな地域力向上の担い手の発掘・育成し，やがて景観まちづくり団体を組織する芽を育てることを目標としている．
H31 (2019)	3/—	荒川区景観まちづくりシンポジウム 2019	成果発表を行い，最優秀賞，優秀賞を決定する．	――